

クルーズの最近の動向について

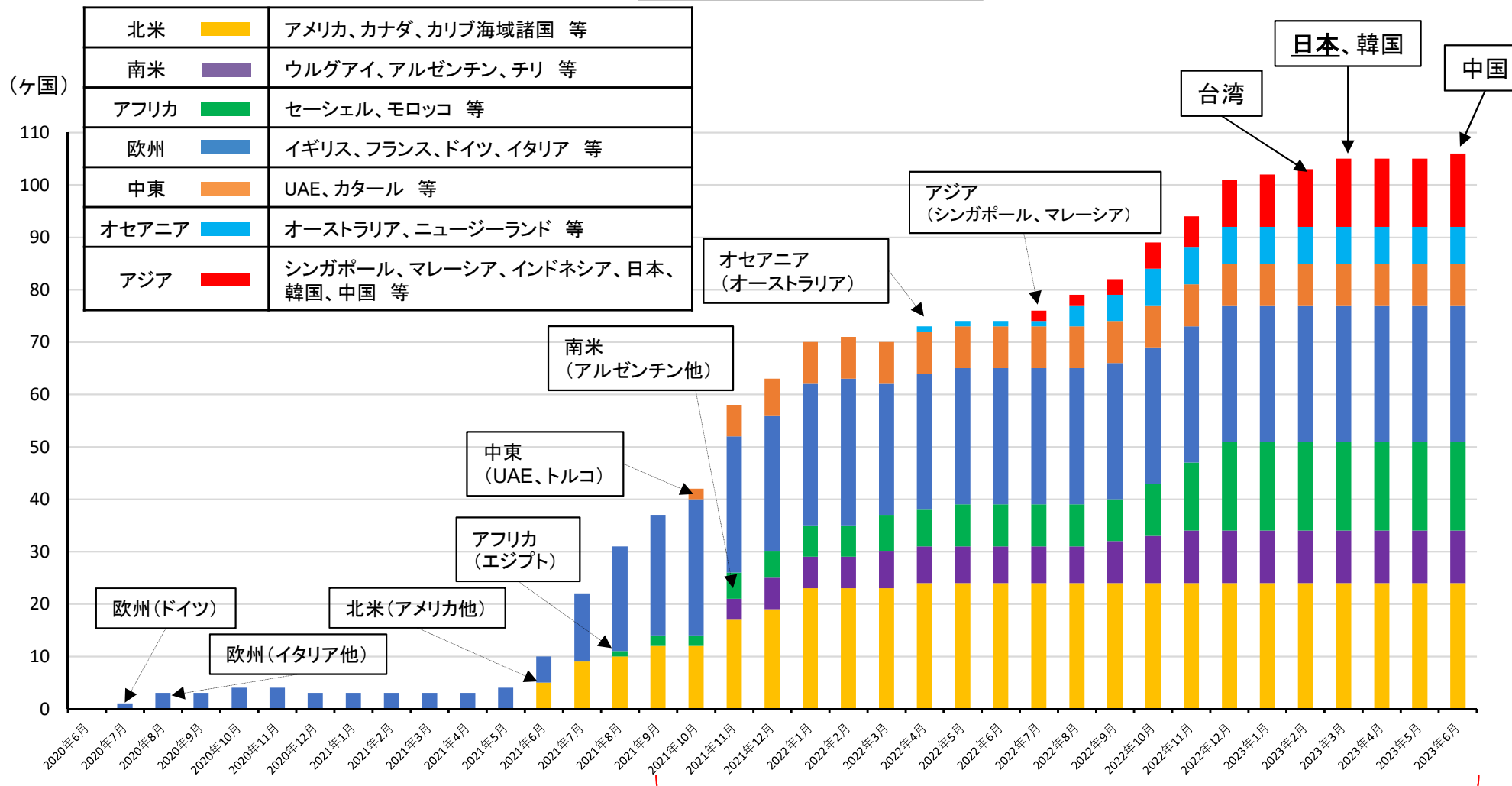
2023年9月

国土交通省 海事局・港湾局

世界のクルーズ船の運航再開状況(国際クルーズ)

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、世界中でクルーズ船の運航休止を余儀なくされた。
- 国際クルーズについては、2020年7月から欧州において徐々に運航が再開され、2021年6月北米、8月アフリカ、10月中東、11月南米、2022年4月オセアニア、7月アジアと順次再開されている。
- 北東アジアにおいても、3月に日本、韓国で運航再開、6月には中国で試験的な運航が再開された。

国際クルーズ再開国数



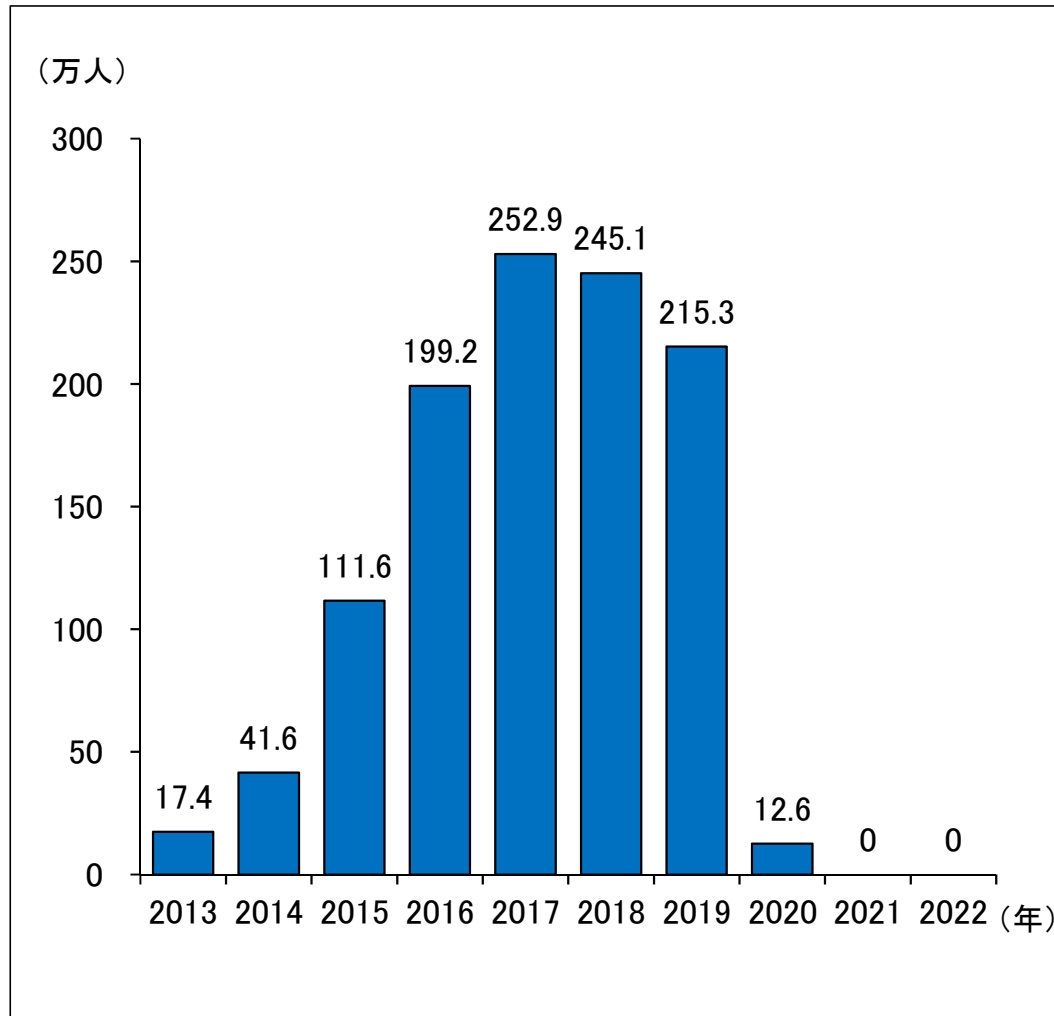
世界各地において再開の動きが活発化

我が国のクルーズ船寄港に関する状況

○2022年の訪日クルーズ旅客数はゼロ、我が国港湾への寄港回数は前年比71.4%増の720回（全て日本船社）となった。（速報値）

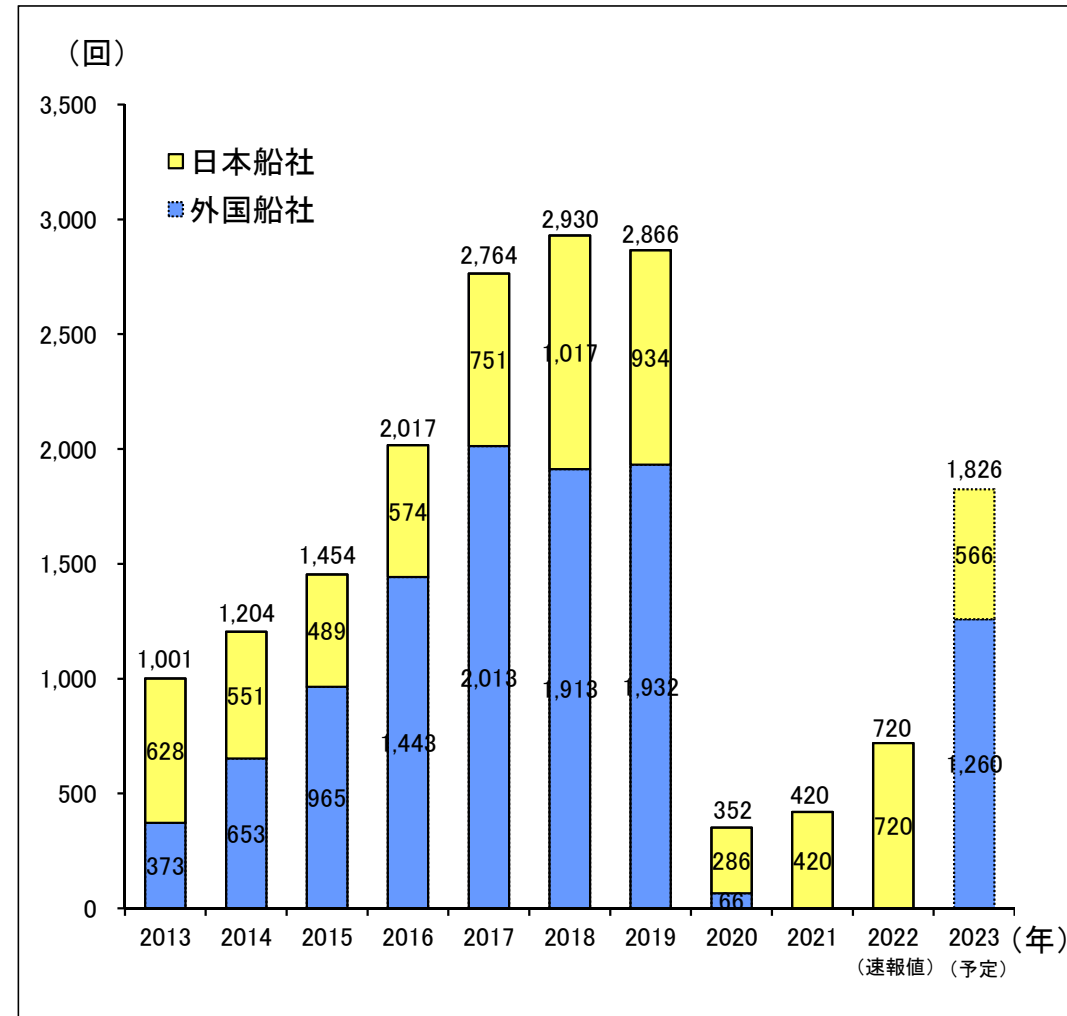
○2023年の寄港回数は1,826回（うち外国船社1,260回）となる予定。

訪日クルーズ旅客数



注1) 出入国在留管理庁の集計による外国人入国者数で概数(乗員除く)。
 注2) 1回のクルーズで複数の港に寄港するクルーズ船の外国人旅客についても、(各港で重複して計上するのではなく)1人の入国として計上している。

クルーズ船寄港回数



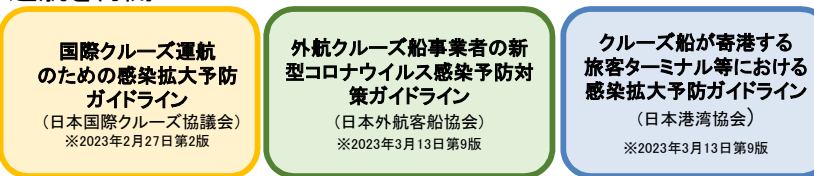
注1) 2013年～2022年は、港湾管理者への聞き取りをもとに、港湾局作成。
 注2) 2023年は、船社や船舶代理店への聞き取りをもとに、港湾局作成(2023年5月25日時点)(商業運航のみ計上)。

国際クルーズ再開後の運航状況

- 国際クルーズについては、業界団体により策定されたガイドラインを踏まえ、2023年3月より本格的な運航を再開。同年5月8日以降は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されたことを受け、業界団体によりガイドラインの見直し等を実施。
- 2023年5月25日時点では、外国船によるクルーズについて、2023年に272本が予定されている。日本船によるクルーズは137本が予定されている。

ガイドラインの状況

業界団体によるガイドラインを踏まえ、国際クルーズの本格的な運航を再開



5月8日以降、新型コロナが5類感染症に変更

改訂し継続※1

廃止※2

廃止※3

※1) 感染症法上の位置付け変更を踏まえ、規定を一部見直し。各船社におけるプロトコル整備等を推奨
 ※2) 個社毎に感染対策マニュアルを整備するなど、引き続き感染対策を継続
 ※3) 各港において、関係者間で情報共有する体制を継続

2023年(令和5年)のクルーズ予定一覧

◎外国クルーズ船 : **34隻 計272本**のクルーズが予定 (2023年5月25日時点)

【JICC:147本】 ※JICC: 日本国際クルーズ協議会

○プリンセス・クルーズ

ダイヤモンド・プリンセス 35本

○ホーランド・アメリカ・ライン

ウエステルダム 8本

○コスタ・クルーズ

コスタ・セレーナ 29本

○キューナード・ライン

クイーン・エリザベス 6本

○シルバー・シー・クルーズ

シルバー・ミュージック 5本

シルバー・ウィスパー 5本

○MSCクルーズ

MSCベリッシマ 26本

MSCポエジア 1本

○ポナン

ル・ソレアル 9本

○リージェント・セブンシーズ・クルーズ

セブンシーズ・エクスプローラー 11本

セブンシーズ・マリナー 1本

○オーシャンシア・クルーズ

ノーティカ 5本

インシグニア 2本

レガッタ 2本

○ノルウェー・ジャン・クルーズ・ライン

ノルウェー・ジャン・ジュエル 2本

【JICC以外:125本】

○シーニック・クルーズ

シーニック・エクリプス 6本

○ウィンドスター・クルーズ

スター・ブリーズ 12本

○ハパグロイド・クルーズ

オイローパ2 2本

ハンセアティック・ネイチャー 5本

○スワン・ヘレニック

SHミネルバ 3本

○リンドブラッド・エクスペディションズ

ナショナル・ジオグラフィック

・レゾリューション 3本

○ヘリテージ・エクスペディションズ

ヘリテージ・アドベンチャラー 5本

○コーラル・エクスペディションズ

コーラル・アドベンチャラー 3本

○カーニバル・クルーズ・ライン

カーニバル・ルミノーザ 1本

○ロイヤル・カリビアン・インターナショナル

スペクトラム・オブ・ザ・シーズ 3本

○セレブリティ・クルーズ

セレブリティ・ミレニアム 6本

○アザマラ・クルーズ

アザマラ・クエスト 4本

○フェニックス・ライゼン

アマデア 2本

○TUIクルーズ

メイン・シフ5 2本

○ピース・ボート

パシフィック・ワールド 4本

○バイキング・オーシャン

・クルーズ

バイキング・オリオン 4本

○フレッド・オルセン

ボレアリス 1本

○ブルードリーム

インターナショナルクルーズ

ブルードリームスター 47本

○招商バイキングクルーズ

招商伊敦 12本

◎日本クルーズ船 : **2隻 計137本**のクルーズが予定 (2023年8月30日時点)

○商船三井クルーズ

にっぽん丸 国内73本 国際5本

○郵船クルーズ

飛鳥II 国内55本 国際4本(2024年4月発には世界一周も予定) 3

国際クルーズ再開後の入港状況

●アマデア (清水港:2023年3月1日)

▼埠頭のマルシェで買物をする旅客



▲アマデア入港

中国発着日本向け国際クルーズの再開等について

- 2023年6月18日から、ブルードリームインターナショナルクルーズ及び招商バイキングクルーズが中国発着日本向けの国際クルーズの運航を再開した。
- 本クルーズは、中国政府・交通運輸省の「国際クルーズ輸送の秩序ある試験的再開計画」(本年3月29日公表)を受けたパイロット事業として実施されるもので、同計画では、新型コロナウイルスの感染予防と制御への対応を求めており、上記両クルーズ船社は、感染症対応計画(いわゆる、プロトコル)を整備するとともに日本国際クルーズ協議会(JICC)のガイドラインも遵守して運航された。
- また、中国の文化観光省は、本年8月10日に、日本を海外団体旅行の解禁国とすることを発表した。

ブルードリームインターナショナルクルーズ

- 船名:ブルードリームスター
(総トン数24,318トン、乗客定員836人、乗員定員325人)
- 運航本数:47本



上海に拠点を置く、中国系資本のクルーズ船社

【感染症対策】

プロトコル整備等を含む日本のガイドラインの内容を遵守

- (ワクチン接種)乗員の接種を義務付け、乗客の接種を推奨
- (乗船前スクリーニング)乗船前に症状が確認された場合、抗原定性検査を実施
- (船内隔離)陽性者は5日間の自室での隔離を推奨
- (運航基準)日本の運航基準に則り、船内の陽性者数に応じた対応を実施

【寄港予定】※2023年6.7月に出発するクルーズを抜粋

6/19-6/23 上海～博多(6/21)～上海
 6/23-6/27 上海～長崎(6/25)～上海
 6/27-7/1 上海～博多(6/29)～青島
 7/1-7/5 青島～博多(7/3)～青島
 7/5-7/10 青島～門司(7/7)～長崎～青島
 7/10-7/14 青島～博多(7/12)～青島
 7/14-7/19 青島～長崎(7/16)～博多～青島
 7/19-7/23 青島～長崎(7/21)～青島
 7/23-7/27 青島～長崎(7/25)～青島
 7/27-8/3 青島～博多(7/29)～広島～大阪～別府～青島

招商バイキングクルーズ

- 船名:招商伊敦(チャイナマーチャンツエデン)
(総トン数48,000トン、乗客定員930人、乗員定員480人)
- 運航本数:12本



米バイキングクルーズと中国企業による合弁船社

【感染症対策】

プロトコル整備等を含む日本のガイドラインの内容を遵守

- (ワクチン接種)乗員の接種を義務付け、乗客の接種を推奨
- (乗船前スクリーニング)乗船前に症状が確認された場合、抗原定性検査を実施
- (船内隔離)陽性者は原則、中国まで隔離を継続
- (運航基準)日本の運航基準に則り船内の陽性者数に応じた対応を実施

【寄港予定】※2023年6.7月に出発するクルーズを抜粋

6/18-7/2 上海～長崎(6/21)～博多～別府～大阪～名古屋～清水～徳島～高知～鹿児島～上海
 7/2-7/16 上海～鹿児島(7/5)～高知～徳島～名古屋～清水～大阪～広島～博多～長崎～上海
 7/16-7/30 上海～鹿児島(7/19)～高知～大阪～清水～名古屋～徳島～広島～博多～佐世保～上海
 7/30-8/13 上海～博多(8/2)～高知～徳島～名古屋～清水～大阪～別府～鹿児島～長崎～上海

ロイヤル・カリビアン・インターナショナル

- 船名:スペクトラム・オブ・ザ・シーズ
(総トン数169,379トン、乗客定員4,418人、乗員定員1,551人)
- 運航本数:60本



【感染症対策】

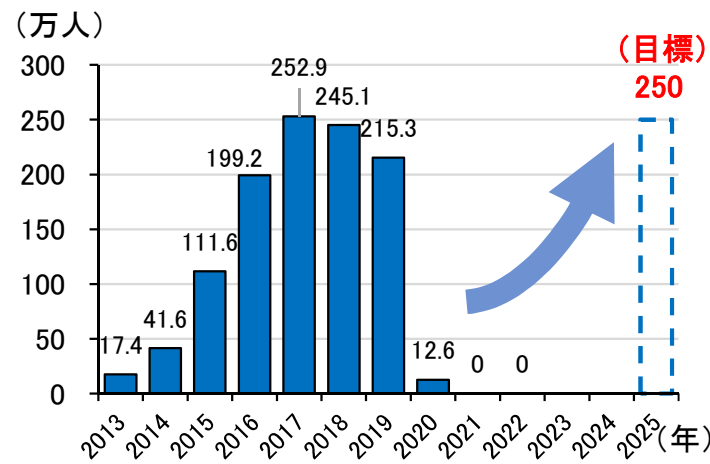
プロトコル整備等を含む日本のガイドラインの内容を遵守

2024年4月より上海を発着港とし、福岡、沖縄、長崎、大阪、東京などに寄港する予定。また、2024年12月より香港を発着港とし、石垣、宮崎などに寄港する予定。

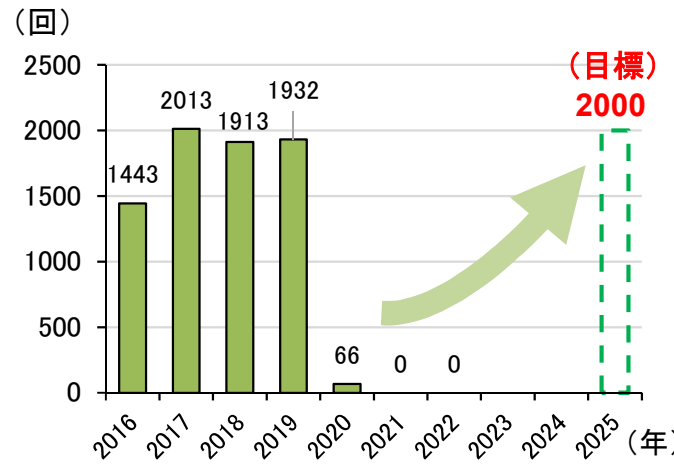
クルーズ再興に向けた訪日クルーズ本格回復への取組

○日本におけるクルーズ再興に向け、安心してクルーズを楽しめる環境づくりを進め、訪日クルーズ旅客を令和7年にコロナ前ピーク水準の250万人まで回復させるとともに、外国クルーズ船の寄港回数がコロナ前ピーク水準の2,000回を超えることを目指した取組を推進する。また、地方誘客を進めるための外国クルーズ船が寄港する港湾数について、令和7年にコロナ前ピーク水準の67港を上回る100港とすることを目指して取り組む。

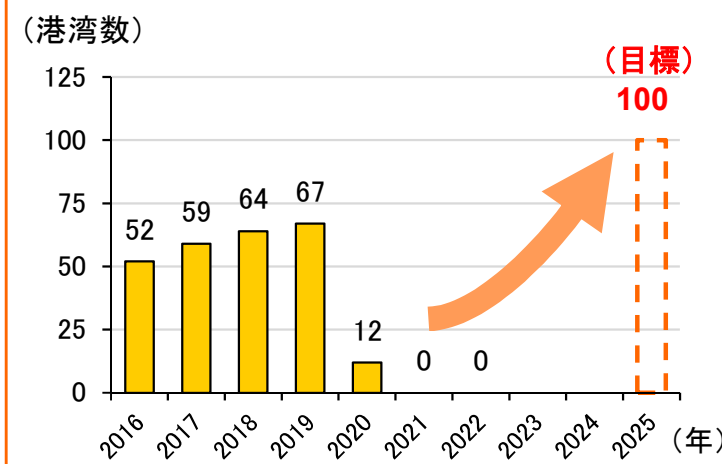
新たな目標値① 訪日クルーズ旅客数



新たな目標値② 外国クルーズ船の寄港回数



新たな目標値③ 外国クルーズ船が寄港する港湾数



○訪日クルーズ旅客を令和7年にコロナ前ピーク水準の250万人

○外国クルーズ船の寄港回数を令和7年にコロナ前ピーク水準の2,000回

○外国クルーズ船が寄港する港湾数について、令和7年にコロナ前ピーク水準の67港を上回る100港

- ・ 関係業界団体が作成した感染防止対策ガイドラインを各クルーズ船社が順守して船内の感染防止対策を徹底し、また、寄港地においても、港湾での感染防止対策を進めることにより、日本全体で安心してクルーズを楽しめる環境づくりを進める。
- ・ 既存ストックを活用したクルーズ船の受入環境整備や寄港地を探すクルーズ船社と港湾管理者のマッチングを図るサービスの提供、クルーズ旅客の受入機能の高度化等によりクルーズ船寄港の「お断りゼロ」を実現する。
- ・ 旅客施設等への船社の投資に併せ、国・港湾管理者が岸壁の整備や利用調整等のハード・ソフト両面からの支援を行うことによるクルーズ船の長期的かつ安定的な寄港の確保や、民間事業者による旅客施設の整備に対する支援により、世界に誇る国際クルーズ拠点の形成を図る。
- ・ クルーズ船寄港の地域経済効果を最大化させるため、寄港地の地方公共団体とクルーズ船社が連携し、寄港地での消費を船内等で喚起するスキームを構築するとともに、内陸部を含めた広域に及ぶ上質な寄港地観光造成に向けた取組を進める。
- ・ 全国の港湾管理者等で構成する全国クルーズ活性化会議と連携して瀬戸内海や南西諸島等の新たなクルーズ周遊ルートの開拓を進めるとともに、多様化する訪日クルーズニーズに対応したプロモーションや海外の国際展示会への出展等、訪日クルーズ寄港促進の取組を進める。